

第1回 国営備北丘陵公園管理運営ビジョン検討懇談会

<議事要旨>

■開催日時：令和6年9月4日(水)15時00分～17時00分

■会場：中国地方整備局 建政部3階会議室(広島市中区八丁堀 2-15)

■主な意見

1. 懇談会の設置について

- ・規約について特に意見無し。
- ・会長は委員互選の結果、平田富士男兵庫県立大学大学院教授となった。

2. 管理運営ビジョンについて

(1) 管理運営ビジョンの位置付け

- ・地方部の公園である本公園の管理運営ビジョンの検討においては、公園区域のみならず、庄原市、備北地域、日本全体の動向を踏まえる必要がある。これら社会の動向・関心の方向性を大局的にとらえつつ、今後の中国地方における備北地域がどのようにあるべきかを検討していくことが、本公園のあるべき姿につながるものと思われる。「現状」と「将来」の間に「マクロ・ミクロの社会の動向・関心の方向」を捉え、その潮流にどのように対応するか・何を実現するかがビジョンの土台になろう。

(2) 管理運営ビジョンの内容

- ・基本計画策定後 30 年経過している。社会的な状況の変化を背景に、今次管理運営について見直すと理解しているが、それに加え、公園自体の課題についても整理し、見直す必要があると認識した。
- ・基本計画策定時から中国地方・庄原市の環境も大きく変化しており、防災・交通・福祉といった観点は当初の基本理念には存在していない。都市公園は防災・交通・観光・福祉など、様々な分野に関わるため、これからの国営公園が果たすべき役割はあらためて検討すべき。地元庄原市をはじめ、関連する自治体の分野ごとの行政計画における本公園の位置付けを確認しておく必要がある。
- ・公園のポテンシャル・課題や各エリアでの取組内容は行政側の視点で検討整理されているが、管理運営ビジョンであるならば、管理運営を行っている民間事業者の視点も重要であり、現行の管理運営の業務従事者の視点・意見も踏まえて検討すること。
- ・今後の公園は単なるレクリエーションの場だけではなく、ビジネスチャンスを生む場にもなる可能性があり、地域の自治組織と連携をしていく必要がある。庄原市の地域自治組織は極めて優れており、地元のノウハウも取り込んでいくことが重要であると考えます。
- ・庄原市として考える公園のポテンシャル・必要性は、外から人を呼び込み回遊性を生むという点もあろうが、庄原市自らが公園を拠点として利用していくという点もあると考える。それは観光の拠点に限らず、交通拠点、行政機能、病院機能など、中国地方からこの地域に来れば解決するという役割もあるとよい。
- ・民間の力を活用することがひとつのギャップを埋める方法論としてある。民間資金・ノウハウを活用することで継続的な魅力づくりができると考えている。官が関与を強めるよりも、民にある程度委ねていくことが望ましいという部分もある。

- ・来園者に求められているサービスを今後も継続的に提供し、また、時代に応じてその質を高めることも想定すると、それに見合った入園料設定も重要ではないか。
- ・市内には、比婆道後帝釈国定公園などもあるが、総じて施設が老朽化してきている。都会から訪れるという点において、ある程度のクオリティが求められる。ただし、テーマパーク的なものを作ればよいという訳ではないと思う。自然を生かした観光振興を図ることは、市として観光振興計画においても記載しており、施策を進めていっている一方で、都会の方から見た庄原の魅力あるいは自然の魅力は、どういったところにあるのか、あらためてわかりやすく整理する必要がある。
- ・観光の視点では、広島県の外国人観光客数について令和6年に入り、コロナ前を上回っているが、県北部まで足を運ばれていない印象。コロナ禍を経て、日本の歴史・文化をじっくり体験するニーズが高まってきている。特に広島県は欧米外国人が多いという特性の中で、当該ニーズは欧米に特徴的である。庄原の歴史・文化・里山は、インバウンド需要を取り込むうえで役立つのではないか。
- ・現状における公園管理の課題が見えてこない。45万人という来園者や売上げ額は、市内トップクラスの集客、収益があり、管理形態も現状においても民間委託し民間のアイデアを踏まえながら進めている。市内の道の駅たかのは昨年度、過去最高益を達成しており、決して庄原市の観光需要が低迷しているわけではない。備北丘陵公園は駐車場と入場料という二重のハードルがある一方、道の駅は入場無料で高速バスの停留所あるなど、優遇されている中でも健闘しているとも考えられる。一方、訪問していただく際の交通や外国人への対応など現状以上に新たな魅力の発掘と発信は大切。そういった方観点で管理運営ビジョンを整理してもらいたい。

3. 懇談会の今後の進め方について

- ・スケジュールなどについて特に意見無し。

- ・上記ご意見を踏まえ、第2回懇談会に向けて検討を進める。[事務局]

以 上